



暮らし

Life Style



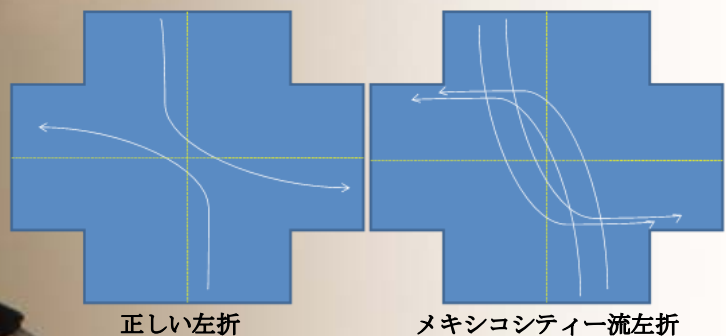


＜交通事情＞

(1) 交通渋滞と運転マナー

メキシコシティ日々の生活で悩まされるのが、悪化の一途を辿る交通渋滞と運転マナーの悪さである。自家用車を買える所得層のほとんどは公共交通機関を使わないので、所得水準の上昇に応じて年々自家用車の数が増え、道路整備が自家用車の拡大に追いつかない状況となっている。朝7時～9時30分、夕方6時～9時は深刻な交通渋滞に見舞われ、主要幹線道路が「駐車場」（車がほとんど動かない状態）と化す。

また、メキシコシティでは、運転免許取得に際して学科試験もないため、市民の大半が正しい交通ルールを知らない。メキシコシティで運転免許を取得するためには、事前に銀行などで手数料を支払った上で、市の行政区役所が運営する運転免許発行所に行き、記入済みの申請書と公式身分証明書、住所が確認できる書類を提示すれば良い。ざっとみて、走行する車の8割以上が方向指示を出さない。左折、もしくは右折する際は、事前に車線変更して曲がる方向の車線に寄ることをせず、自分がいる車線からいきなり曲がり始める車も多い。最悪なのは、左折（日本でいう右折）の仕方を知らないことだ。左折する場合、交通ルールでは交差点の中央から手前で左折するのがルールだが、メキシコシティの場合、交差点の中央から奥に回り込んで左折しようとする。そのため、先頭車両に続く車列でお互いに反対方向からくる車の左折を塞いでしまうのである。さらに、前の車の後におとなしく続いて待つことをよしとせず、前の車のさらに先に回り込もうとする。したがって、左折のために要する車線は左1車線では済まず、中央車線まで塞いでしまう。このメキシコシティ流左折によって生まれる交通渋滞は、メキシコシティの方々に頻繁にみられる。



(2) タクシー

2009年末時点でメキシコシティには合計12万8,438台のタクシーが走っている。タクシーには、大きく分けて4種類ある。①流しのタクシー（Libre：リブレ）、②プー

ス待機タクシー（Sitio：シティオ）、③ラジオタクシー（Radio Taxi）、④ホテル付タクシー（Turismo：トゥリスモ）の4種類。料金は①が最も安く、④が最も高い。②の中には電話で呼べる③のサービスが付いたものが多い。①は時折、タクシー強盗に早変わりすることもあるため、駐在員や旅行者は安全のために②～④を使った方がよい。

①のメーター料金は、2ドアのものは初乗り5.8ペソで250メートル毎、もしくは45秒毎に0.78ペソが加算される。4ドアのものは初乗り6.4ペソで加算料金は同じ。②のメーター料金は初乗りが9.6ペソ、250メートル毎、もしくは45秒毎に0.96ペソが加算される。③や④の料金はメーター制でないものが多く、目的地のゾーンによって料金が決まっているため、乗る際に確認する必要がある。なお、タクシーにチップは不要だが、重い荷物を持ってもらった場合は1ドル程度のチップを支払うことが多い。

(3) 地下鉄（METRO）

メキシコシティ最大の公共交通機関であり、毎日386万人（2010年実績）の市民を輸送している。ただし、車内は決して清潔とはいえず、空調（エアコン）なども備わっていないため、高所得層が地下鉄に乗ることはまずない。

現在、METROはバックアップも含め、13タイプの合計3,042車両を有しているが、うち11タイプは鉄道レールを用いず、タイヤを用いたものである。2011年2月時点で11の路線があり、総延長は176.8キロメートルに及ぶ。現在、12号線を建設中。

(4) メトロバス（Metrobus）

2005年6月に運行が開始された比較的新しい公共交通機関であり、大きな成功を収めている。バス専用レーンを走り、乗客が速やかに乗り降りできるように乗り場が配置されていることから、効率的な人員輸送が可能となっている。清潔な最新型2両連結バスを用いており、比較的裕福な層の利用もある。市政府によると、メトロバスの登場により、2万2,000人が自家用車の利用を止め、バス通勤に切り替えたという。これにより、毎年8万トンのCO2排出削減につながっている。

現在、2005年に開設された1号線に加え、2008年12月に開設された2号線が走っており、毎日45万人の利用者がある。一般車両の走行が禁止されたバス専用レーンを走るため、事故が少ないという特徴があるほか、緊急時に救急車やパトカー、消防車がバス専用レーンを走ることができ、渋滞の激しい通常道路では緊急車両も身動きが取れないため、専用レーンが人命救助に役立っている。

(5) レンタサイクル（ECOBICI：エコビシ）

自転車「ゼロ・エミッション」移動手段として推奨するメキシコ市が2010年2月に導入したレンタサイクル・スタンド・ネットワーク。市内90カ所にスタンドを配置し、1,200台の自転車を備えている。

エコビシを利用するためには、利用者カードを年間300ペソ（約25ドル）で作成する必要がある。基本的には短距離・短時間利用を前提としているため1回45分までは

カード料金だけで済むが、利用時間が45分を超えると追加料金がかかり、クレジットカードなどで支払う必要がある。エコビシは借りたスタンド以外のスタンドで返すこともでき、スタンドとスタンドの間の間隔は約300メートルである。市政府によると、導入から1年間で利用者数は2万4,000人に達したという。

<金融事情>

1990年代以降の外資規制緩和に伴い、メキシコにはスペイン（BBVA、Santander）、イギリス（HSBC）、米国（シティバンク）など多くの外資系銀行が企業買収や子会社形態で進出し、金融業界における外資の影響力が強くなっている。日本の三菱東京UFJ銀行も現地法人を設立しているが、法人営業しかしていない。

メキシコで最も支店数が多いのは、スペイン系のBBVA Bancomer 銀行であり、米国シティバンクの子会社であるBanamex、イギリスのHSBC、メキシコ資本のBanorte、スペインのSantanderと続く。2010年末時点でメキシコシティには1,767の銀行支店と3,267台のキャッシュディスペンサーがある。

<通信事情>

メキシコでは固定電話よりも携帯電話の方が普及しており、携帯電話の普及率は全国で81.3%、メキシコシティでは100%以上（220.9%）に達する。メキシコでは利便性からプリペイド携帯電話を利用している人が多く、2010年末時点で携帯電話利用者の86.2%がプリペイドの利用者である。第3世代携帯電話でもプリペイド愛好者がおり、プリペイドのiPhoneなども売られている。

プリペイド携帯電話の場合、街角商店や路上販売員が販売する金額別（100ペソ、200ペソ、500ペソなど）の利用カードを購入してコードを入力するか、コンビニやスーパーのレジで電子的にチャージするか、どちらかの方法で事前に残高を貯めておく必要がある。基本的に電話を受けるのは無料であるため、自分から電話をかけるときだけ必要に応じて20ペソなどの小額をコンビニでチャージする低所得層もみかける。

<コンビニエンスストア>

女性の社会進出などライフスタイルの先進国化により、メキシコでもコンビニが増加している。公共料金、罰金、税金などの様々な支払いがコンビニで行えるようになり、利便性が増していることもコンビニ増加の要因だ。

国内店舗数最多はメキシコ最大のコカコーラ・ボトラーであるFEMSAが経営する「OXXO」であり、全国合計で8,246（2010年12月末時点）店舗を展開している。第2位は国際的フランチャイズである「セブンイレブン」で、全国約1,170店舗（2010年11月時点）を展開している。第3位はコロナ（Corona）で有名なビール会社の（Grupo Modelo）が経営しており、2009年末時点で830店舗を展開している。





市内に11路線
ある地下鉄
(Metro) とバ
ス専用レーン
を走るメトロ
バス (Metrobus)
。地下鉄とい
ってもメキシ



コシティーの
場合は地上を
走る区間也多
い。地下鉄の
運行時刻は安
定しておらず
、次の列車が
15分来ない時
もある。ほと
んどの路線で
車内に空調が
ないため、特
に朝晩の混雑
時は快適とは
言えない。メ
トロバスは近
代

的な2両連結
車両を用いて
いるため清潔
感があり、比
較的所得が高
い層でも利用
している。





上段の写真は、2009年に開始された歴史地区の「シクロ・タクシー (Ciclotaxi)」。

人力で動く3輪車の動力を電気モーターで補助している。中段の写真は、2008年に操業開始した郊外と都心を結ぶ郊外旅客鉄道 (Tren Suburbano) の第1系統。現在、第2系統、第3系統の入札を準備しており、郊外から都心に自動車や乗り合いバスで通勤する人々の代替移動手段となることを目指している。下段はタクシーブースで待機するタクシー。

市内の大手銀行の支店とキャッシュディスペンサー。メキシコシティの金融インフラは国内で最も整備されており、市内のいたるところに支店があるほか、24時間利用可能なキャッシュディスペンサーが数多く設置されている。一般的に銀行の窓口は混雑しているが、銀行によってはVIP客専用の特別窓口が設けられており、口座残高が多いVIP利用者は専用窓口を利用することが可能。





上段の写真は、メキシコシティの主要なホテル。シェラトン、マリOTTなどの米系ホテルやメリアなどの欧州系ホテルチェーンが進出しているほか、メキシコ資本のフィエスタ・アメリカナ（Fiesta Americana）系列、同じくメキシコ資本のカミノ・レアル（Camino Real）ホテルなどがある。下段の写真は、市民の大半に普及している携帯電話会社のサービス・オフィス。携帯電話市場の約7割を占める世界最大の富豪カルロス・スリム（Carlos Slim）が所有する電話会社テルセル（Telcel）のほか、スペインのテ



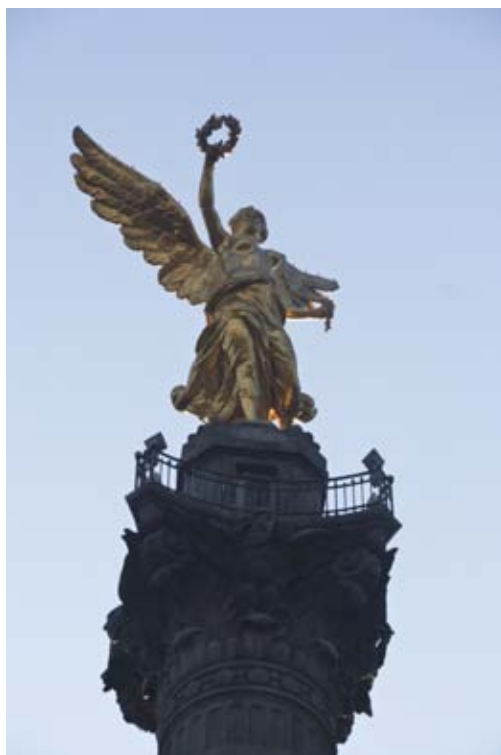
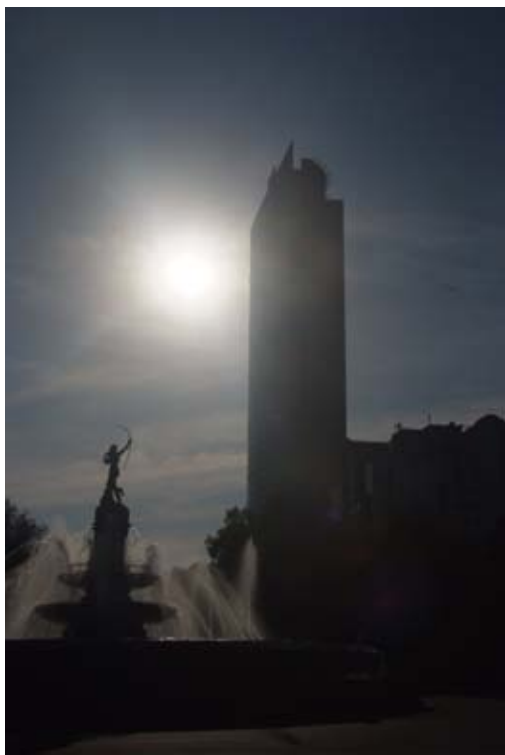
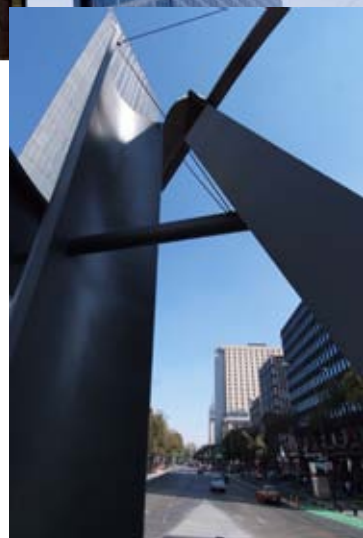
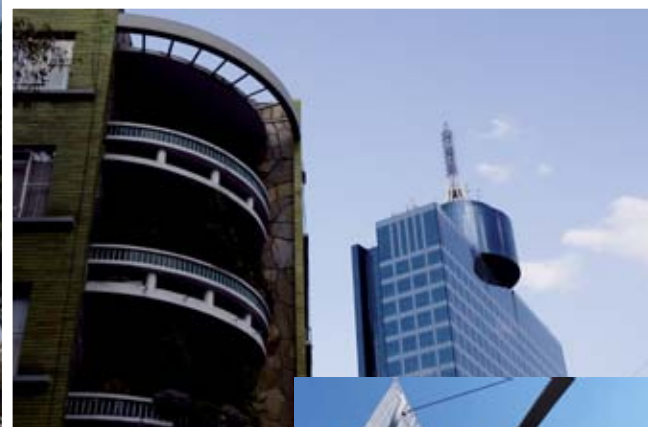
レフォニカ・モビスター（Telfónica Movistar）とメキシコ資本のイウサセル（Iusacell）、米国のネクステル（Nextel）が参入している。



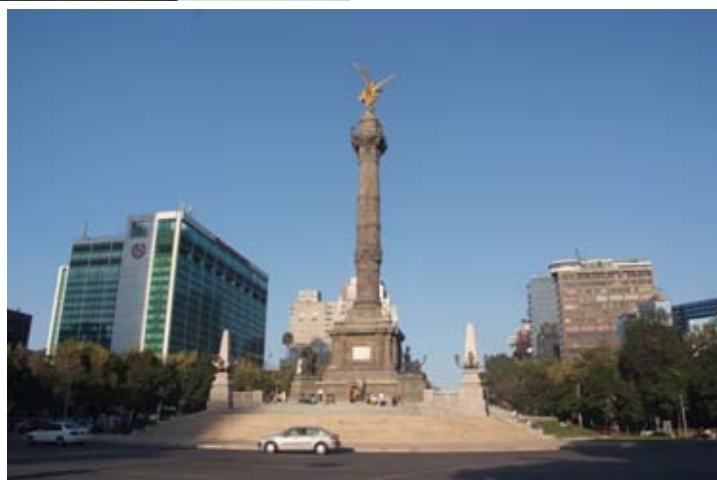


急速に広がりつつあるコンビニエンス・ストアのフランチャイズ網。24時間経営がほとんどで、プリペイド携帯電話の課金や公共料金の支払いもでき、利便性が上がっている。昨今は銀行との契約に基づき、銀行の窓口業務の一部を代行しているコンビニもある。





メキシコシティを代表する建物やモニュメント。上段はワールドトレードセンター。中段左はラテンアメリカで最も高い建物のトーレ・マジョール（Torre Mayor）。中段中央と右下はメキシコ



シティのシンボルである独立記念塔（Ángel de la Independencia）。左下の写真の黄色いモニュメントは35階建ての高層ビル（Torre del Caballito）の前に作られた馬のモニュメント「エル・カバジート（El Caballito）」。

上段の写真は死者の日（11月2日）の墓地の風景と死者の日に食べる死者のパン（Pan de Muerto）や墓前のお供え。死者の日にはマリーゴールドの花が供えられるほか、骸骨の形のお菓子も供えられる。メキシコでは先史時代から骸骨を死と生まれ変わりの象徴として飾る習慣があ



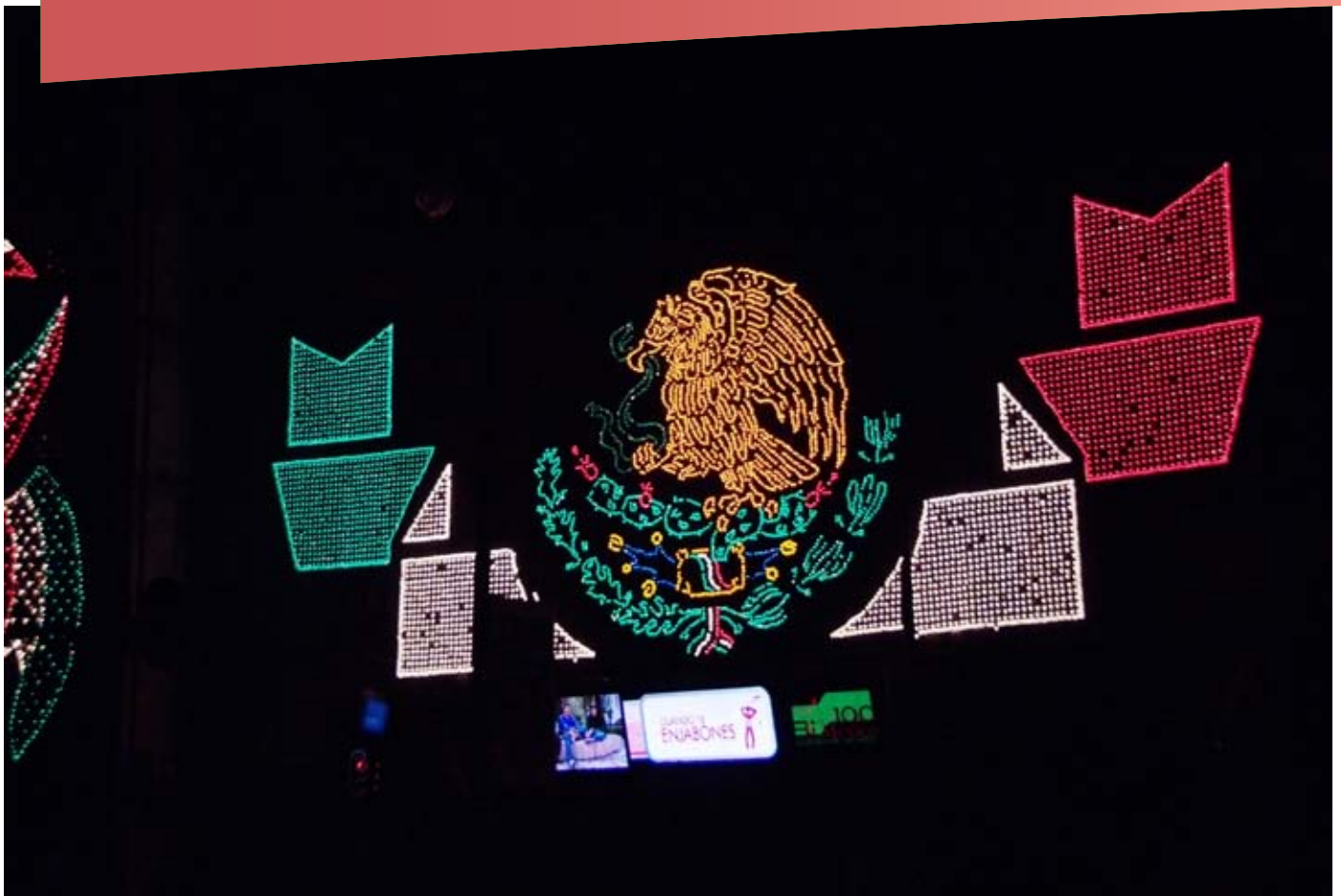
り、骸骨はメキシコでは親しみやすいオブジェとなっている。中～下段の写真はクリスマスイブの風景。





上段の写真はメキシコ市北部にあるグアダルルーペ寺院。先住民の肌の色をした褐色の聖母マリア（Virgen de Guadalupe）が発見された丘のふもとに立つ。1万人規模を収容できる寺院でメキシコ各地からカトリック教徒が巡礼に来る。中段の写真はメキシコを代表する楽団様式であるマリアッチ。ビウエラ、ギター、ギタロン、バイオリン、トランペット、フルート、アルパなどの楽器を用いる。下段の写真は革命記念日（11月20日）のパレード。

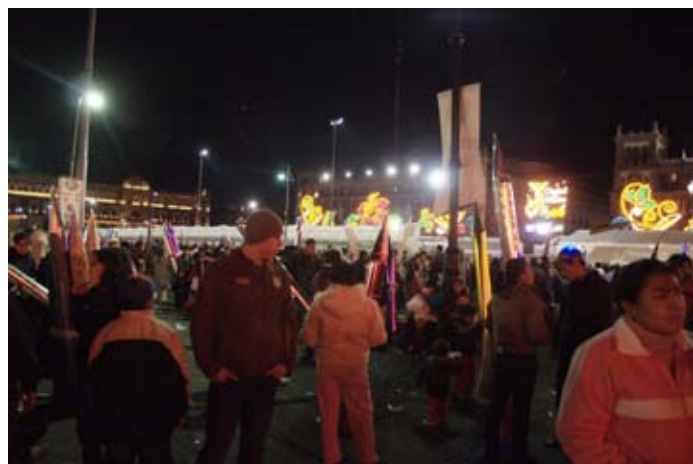




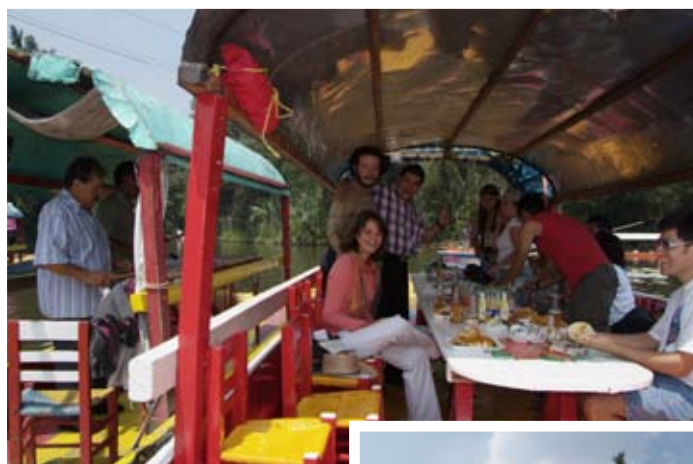


クリスマスシーズンに歴史地区の憲法広場（Zócalo）にオープンするスケート場。入場料は無料。スケート靴は貸してくれる。





上段の写真は、クリスマスイブの憲法広場（ソカロ）。華やかなイルミネーションを見に多くの市民が集まる。下段の写真は、週末の舟遊びで有名なソチミルコの風景。湖の上に作られた昔のメキシコシティの名残を見せる観光地で、舟遊びをしていると、食べ物を売る船やマリアッチ楽団を乗せた船などが近寄ってくる。



Mexico City Style

<撮影・編集協力>

撮影編集指揮——**Pedro Sierra Romero** (ペドロ・シエラ・ロメロ)

写真撮影——**Ernesto Navarrete Arauza** (エルネスト・ナバレテ・アラウサ)

デザイン——**Gullermo Castañeda Suárez** (ギジェルモ・カスタンニエーダ・スアレス)

【免責事項】

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の損失については、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

Copyright © 2011 JETRO. All rights reserved.

本書の一部または全部の複写（コピー）・複製・転載及び記録媒体への入力等は、著作権法上の例外を除き、禁じます。これらの許諾については、ジェトロまでご照会ください。

